

令和5年12月22日

能代市教育委員会  
12月定例会会議録

能代市教育委員会



令和5年12月22日、能代市教育委員会定例会を能代市役所二ツ井町庁舎2階大会議室において、午後2時に開会した。

○出席の委員は、次のとおりである。

教育長	高橋誠也
委員	木村高寛
委員	西村省一
委員	中嶋佐千子
委員	寺田恵美子

○説明のため出席した者は、次のとおりである。

教育部長	伊藤勉
教育部次長	関俊英
教育総務課長	三沢純一
能代教育事務所長	加賀政樹
学校教育課長	安部芳幸
学校教育課参事	三洲龍太
学校教育課参事	大山恵美
学校給食センター所長	工藤久美子
生涯学習・スポーツ振興課 文化財保護室長	山崎和夫
教育総務課長補佐	秋林純

○オブザーバーとして参加した者は、次のとおりである。

学校教育課指導主事	柴田裕彦
学校教育課指導主事	大山祐子
学校教育課指導主事	佐々木大

○本日の会議に付した事件

- 日程第1 会期の決定
- 日程第2 会議録署名員の決定
- 日程第3 前回定例会会議録の承認
- 日程第4 教育長報告
- 日程第5 その他

#### 【日程第1 会期の決定】

○教育長

本定例会の会期は、本日1日限りとし、会議時間を午後4時までとする。

【日程第2 会議録署名員の決定】

○教育長

会議録署名員に、3番西村委員と6番寺田委員を指名する。

【日程第3 前回定例会会議録の承認】

○教育長

委員の皆さまから異議がないので、前回11月定例会会議録を承認する。

【日程第4 教育長報告】

○教育長

前回定例会以降の行事等について報告。

11月20日(月) 第16回未来を創る能代っ子ふるさと会議(能代市文化会館)

11月22日(水) 第1回能代市奨学選考委員会(本庁舎 会議室7)

11月22日(水) 令和5年度能代市小・中学校教頭会第3回研修会

(二ツ井町庁舎 大会議室)

11月28日(火) 市議会定例会(～12月20日 本庁舎 議場)

11月30日(木) 令和5年度地教委教育長・校長・県教委三者協議(山本地域振興局)

12月1日(金) 第3次能代市スポーツ推進計画策定委員会(本庁舎 会議室2)

12月12日(火) 令和5年度能代市いじめ問題対策連絡協議会

(二ツ井町庁舎 庁議室)

12月22日(金) 教育委員会定例会(二ツ井町庁舎 大会議室)

12月25日(月) 教師ミニミニ体験閉講式(本庁舎 会議室9・10)

1月5日(金) 能代商工会議所2024年新春のつどい(プラザ都)

1月6日(土) 第23回教育長杯ミニバスケットボール交流大会

(～7日 能代市総合体育館)

1月6日(土) 第24回能代市芸術文化章授章式、祝賀会(プラザ都)

1月9日(火) 令和5年度能代市総合教育会議(本庁舎 会議室9・10)

1月19日(金) 教育委員会定例会(二ツ井町庁舎 大会議室)

○木村委員

11月22日の奨学選考委員会の概要をご教示願う。

○教育部長

今年度1回目の選考委員会で、今回は、市奨学金及びふるさと人材育成・定住促進奨学金のいずれも定員に満たない状況だった。新たに設けた選考基準に基づき各委員から選考していただき、基本的には全員が候補者となった。定員には満たなかったことから、現在、第2回目の募集を予定しており、令和6年2月中には、第2回選考委員会を開き、できるだけ有能な方を候補者として選考したいと考えている。

## 【日程第5 その他】

### ○教育長

「その他」について

各課から 報告事項や連絡事項があれば、お願いします。

### ○教育部長

令和5年12月市議会定例会の概要について

①一般質問の内容について《資料により説明》

②文教民生委員会の審査状況について《資料により説明》

③予算委員会文教民生分科会の審査状況について《資料により説明》

### ○教育部次長

能代市部活動地域移行推進計画について《資料により説明》

### ○学校教育課長

令和5年度小・中学校卒業式出席者（案）について《資料により説明》

### ○教育長

質問等をお願いします。

### ○木村委員

能代市部活動地域移行推進計画について、部とクラブ、スポ少等が、今後は区別なく各種大会に参加できることになるのか。また、同計画9ページにある、教員等の兼職兼業制度において、教員も指導者になれるという理解で良いのか。

### ○教育部次長

クラブの移行形態で想定されているのは、スポ少にそのまま中学生が参加し、それをクラブとして登録していくもの、新たにクラブチームを新設するもの、民間のクラブで活動している生徒が、クラブチームとして登録するもの、の3点が想定され、現在、スポ少や民間クラブで活動している中学生は、そのまま登録していただければ、各種大会への参加が可能となる。

また、兼職兼業制度は、現在の職場に対し、指導者としての報酬を受け取っても良いかの申請をし、認められれば、その活動の報酬を受け取ることができる制度であり、教職員は、この制度を活用して、指導者として参加が可能であると考えている。

### ○教育長

補足すると、スポ少は基本、小学生で構成され、例えば小学生がスポ少でバドミントンをやり、そのまま中学生になってもバドミントンを同じスポ少の小学生達と一緒に練習している。ところが形式上は、中学生になるとスポ少からは卒団し、所属を能代第二中バドミントン部、東雲中バドミントン部という形だけの部として、大会に出ていた。今後は、能代バドミントンスポーツクラブとして、スポ少と同じ仲間で、学校名ではなくクラブとして大会出場が可能となる。また、体操や水泳のように、スポーツクラブの中でやっている人たちも、今後は、学校名ではなく、サンフルトスイミングスポーツクラブ等、そういった形で大会に出ていくというような形になるのではないかと考えている。

教職員については、今まで仕事の一環として部活動指導していたものが、今後は、例えば4時になれば、学校の先生でなく地域スポーツクラブの指導者として出ていける。手当の面や時間的な面でも、兼職兼業を認めていくという方向である。

### ○木村委員

学校の先生は、4時から指導者、教員どちらの立場となるのか。

○教育長

指導者である。

○教育長

それと、スポーツ少年団に移行した今から20年ぐらい前は、小学校を3時半、4時で放課となってもスポ少の監督は5時まで来ない、といった状況を学校も把握し、移行期は面倒見ていこうとなっていた。これからは、土日については、地域の指導者で見ていくが、平日はまだ学校でもう少し面倒を見てほしい。部活と地域クラブの中間にあり、そういう過渡期は必ず到来するので、学校が一気に手離すことがないようにすることが必要であると思っている。

○西村委員

地域移行の件について、運営主体はどこになるのか心配していたが、スポーツ協会が引き受けるとの説明を受けた。そうすると、スポーツ協会の事務等、非常に増えていくと思うが、その点について、スポーツ協会で了解しているものか。

○教育部次長

今回の移行に関わる運営主体事務としてどういったものがあるか、お互いに確認、協議をしているが、移行に関わるクラブ数はかなり限定されることが見込まれ、業務量的にはさほど多くは発生しないと考えている。ただし、次年度以降、年度途中での移行という話も出てくるのが想定され、そういったサポートについては必要になってくると思う。

また、事業的に財政支援をする形になるので、今いる方で事務を担うよりは、新たに人を配置するという方向で現在検討している。

○西村委員

何となく形が見えてきたなと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

○寺田委員

資料1の市議会一般質問に関し、ある議員から学校給食の無償化についての提案があり、同一議員からは9月にも同提案があった。今、国による学校給食の無償化の動きもあるので、こういった提案があるのだろうと思う。

昨年、学校給食センター所長より、現在の能代市では給食費の未納者は、ほぼいないに等しく、給食費は食材にかかる費用だけで、1食当たり300円に満たないような額で提供されていること、そして、その食材は非常に厳しい基準をクリアしていること、地場産のものを使い安心安全に努めていること等、詳しく説明していただいたことで、私たちは把握しているところだが、こういった学校給食費の理解が多くの方々に浸透していないことから、たびたび質問がきてしまうのかなと感じた。

私が、親としても本当に学校給食に支えられていたということは、子どもが義務教育を卒業してから身に染みて分かった。そういった点も踏まえ、給食費を無償にするより、他のものに充てていただく方が、より良いのではないかという思いがする。例えば、水道凍結や異物混入の事例もあったことから、給食センター内の設備やメンテナンスにお金をかけるとか、アレルギー対応のために栄養士、調理員等の人件費に対し予算を組んでいただければ、より公平に給食が提供されることに繋がるのではないかと思う。

○学校給食センター所長

ありがとうございます。給食費については、現在、物価高騰対策として支援をしている状況である。国では、無償化の実現に向け、現在調査中であり、今後、国の動向を踏まえて検討していくこととしている。

異物混入対策、施設の修繕等及びアレルギー対策については、適切な予算を確保し対応している状況である。

また、調理員の人件費については、民間の業者へ調理等を委託しており、予算は十分に確保している。

○教育長

栄養教諭は学校の先生と同じ県職員であり、県が人件費を確保している。

○教育長

他に質問等がないようなので、質疑を終了する。

続いて、委員から本日の議事や報告事項等以外で、意見等があれば、発言をお願いする。

○寺田委員

部活動地域移行推進計画で、何度も少子化ということが挙げられているが、私の周りで、コロナ禍において、様々なリスクが伴うことを考え、今、子どもを授かることができないと言っていた若い保護者らがいた。

今年5月に、コロナが第5類になったものの、まだまだ子どもを授かることに踏み切れない保護者がいるという現状を知った。出生率の低下については、能代市を挙げていろいろ関係するところが共通理解を図り、喫緊の課題として真剣に対応しなければならないと感じており、意見を述べさせていただく。

○教育部長

今更言うまでもないが、少子化は日本全国共通の課題であり、2100年になっても、今の少子化は止まらないとも言われている。出生率は、1年、2年後すぐに上がるものでもなく、また昔のように産めよ育てよというように旗を振ってやる時代でもないので、非常に難しい状況にある。

能代市においては、第1期総合計画で「子どもを産み育てやすいまちづくり」ということを主要課題の一つに掲げ、様々な形でトータル的に、部局横断的な形で取り組んでおり、教育委員会としても、給食費はじめ、奨学金、或いは返還助成に関しても、直接、子どもを増やすということではないが、子育て支援という観点で取り組みを進めているところである。

○教育長

給食費だけではなく、子育てのための補助や支援等、そういったことに意見が行きがちだが、市ができることとして、子どもたちの教育、又は市民の生涯学習について、やりがいや魅力ある教育を提供していくということに尽力したいと考えている。

○木村委員

どうしたら子供の数が増えるか、皆で20年、30年先までを考えながら知恵を出し合っていかなければならない。その第一歩として、能代の教育とは何かと問うと、ふるさと教育との答えをいただいたことがあった。ふるさとの良さを知るのはもちろんだが、小・中学校の子どもたちが、自分の育ったこのふるさとに責任を持って生きていくのだ、というのを子どもたちに知ってもらいたい。外へ出て行くのも良いでしょう。自分の地域に残り、家族を作って、地域の文化を継承していくというのが、ふるさと教育の第1の目的だと私は思う。

自分のふるさとに責任を持つ。過疎化で無くなっていくふるさとではなく、そのふるさとが、SDGsではないが、しっかりと持続していくような地域にしていくというのが、ふるさと教育の今日的な意義ではないかと思う。そうすると、20年先にはもう少し人口

が上がっていくことができるのではないかと感じている。

○教育長

ありがとうございます。

○教育長

他に、意見等がないようなので、終了する。

以上で予定された事項は、すべて終了した。

次回の定例会は、令和6年1月19日午後2時から、能代市役所二ツ井町庁舎2階大会議室において開催したい。

本日の定例会を閉会する。

午後2時55分閉会